

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解できたりするとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

- ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができるような学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇低学年では音楽表現を楽しむために、中・高学年では表したい音楽表現をするために必要な技能の習得を目指す。
- ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できるような学習活動を設定する。

③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇音楽を形づくっている要素を音楽の特徴を捉える窓口として、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、それによって気付いたり、表現や鑑賞の活動を深めたりしていけるような指導を工夫する。

④コンピュータや教育機器を効果的に活用する指導の工夫

- ◇児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるように、指導のねらいを明確にし、コンピュータや教育機器の活用方法を工夫する。